

中国支部

入梅前の6月7日、第42回中国支部総会が「広島アンデルセン」にて開催されました。青山学院大学コミュニティ人間学部教授河見誠先生、青山学院大学特任教授趙慶姫先生、安西彰子同窓会会長、校友会からは浦田宏広島県支部長をお迎えし、昭30年卒／平9



年卒31名が参加しました。

総会では讃美歌、聖句、祈禱と始まり静謐な時を持つことができました。議事は粛々と進行して、懇親会では乾杯後、5つの各テーブル毎に和やかな会話が弾みました。河見先生が、今年2月25日から3月3日にかけて実施された短大同窓会設立50周年記念行事を「カンボジアスタディツアーの実り」という演題で現地での写真を紹介しながら講話をしてくださいました。来年山口県での総会で再会することを願い、カレッジソングを歌って閉会となりました。

総会前日の交流会は参加者12名で、

名物あなご飯の昼食後フェリーで宮島へ渡って、もみじ饅頭作りの体験、ガイドさんの案内で厳島神社参拝を経て、世界遺産航路で広島市へ戻り、「全日空ホテル」で夕食会を行いました。



なお、経費節減と労力軽減を目指し、これまでの往復ハガキでの支部総会の申し込み受付を、普通ハガキの二次元コードから出欠連絡を受ける形に変更できないか検討しました。まず、前年の広島県支部の活動で実際に使えるか試し、71名中66%の出欠連絡がありましたので、中国支部総会でも使ってみようということとなりました。具体的には、グーグルフォームで申込受付ページを作成し、二次元コードでこのページに出欠等の入力をしてもらい、結果を集約するものです。不慣れな方には電話で連絡していただきました。最終的には116名の出欠連絡があり、その54%は二次元コードからでした。半数近くが電話連絡だったことが課題として残りました。対策として、電話連絡は県の代表者に入るようにして手間を分散させました。長所は、手間がかかるものの前日観光などのポイントを詳細に伝えることが可能な点、スプレッドシートで集計できる点でした。

54 J 吉岡 知子

四国支部

第32回四国支部総会は、6月8日、四国地方が梅雨入りし眉山が小雨に煙る中、「J-Rホテルクレメント徳島」で開催されました。青山学院大学コミュニティ人間科学部教授菅野幸恵先生、同准教授西山利佳先生、山川仁美同窓会副会長、川真田純一校友会徳島支部支部長、菱井泰副支部長をお迎えし開催しました。テーブルの爽やかな紫陽花と穏やかな挨拶が飛び交い再開を喜びました。仁木百子さん(40H)の司会で、岩田康子徳島県部会会長(平6L)が開会の挨拶をし、大場容子さん(38J)の、讃美歌・お祈りで礼拝



をしました。金尾美景支部長から、有意義な支部運営に取り組み、楽しく同窓会を維持しましょうと力強く挨拶をされました。議事が承認され、総会終了後、西山先生の講演「愛と勇気の子供の絵本／平和を求める絵本・児童文学案内」を気を引き締めながらも、楽しく拝聴しました。持参された、身近に無いような絵本を閲覧し、今の世界情勢を鑑み、無関係ではいられないと見入りました。

懇親会では、司会の野々瀬藍さん(平12J)の

明るい呼びかけに思わず笑顔があちこちに。

美味しい食事を楽しみ、来賓や各県の参加者のコメント・スピーチは、ユーモアたっぷり。隣同士でどんな話に花が咲いたか、お聞きしたいくらい楽しそうでした。

讃美歌・カレッジソングを斉唱し、次回開催の川村禮子高知県部会会長(40E)が、連続テレビ小説「あなぱん」の「はいたら、またね!」と高知弁の挨拶に「高知で会いましょう」と手を振りながら、お別れしました。

36 H 斎藤 久代(檜本)

